

もの言う牧師のエッセー 第250話

「イチロー語録」

8月7日、マイアミ・マーリンズのイチロー外野手がコロラド州デンバー、敵地ロッキーズ戦において先発出場し、7回に3塁打を放ってメジャー史上30人目となる通算3000本安打到達の偉業を成し遂げた。敵地ながらもクアーズフィールドの観客は総立ちでスタンディングオベーションを送り、その万雷の拍手と大歓声の中、三塁ベース上のイチローにベンチからマーリンズのチームメートたちが駆け寄ってきて祝福。その後ベンチに戻って腰を下ろしたイチローは、何とサングラス越しに落涙。テレビカメラにこの様子がまざまざと映し出された。

そしてさらに、感動冷めやらぬ中、試合後の会見での彼の言葉は多くの人々を唸らせた。

—「大記録を達成した今の率直な感想を聞かせて下さい。」

イチロー：「あんなに達成した瞬間にチームメートたちが喜んでくれて、ファンの人たちが喜んでくれた。僕にとって3000という数字よりも、僕が何かをすることで、僕以外の人たちが喜んでくれることが、今の僕にとって何より大事なものだということを再認識した瞬間でした。」

—「現在42歳だが、今も昔も変わらずに準備を怠ることがない。どうしてここまで野球を好きでいられるのか。」

イチロー：「うまくいかないことが多いからじゃないですか。これが、もし成功率が7割を超えなくてはいけない競技であったら辛いと思います。3割で良しとされる技術なので、打つことに関しては、これが自分の志といったらちょっと重いですけど、それさえあればその気持ちが失われることはないような気がします。」

—「達成感をどういうふう消化して、これから前に進むのか。」

イチロー：「達成感とか満足感は味わえば味わうほど前に進めると思っているんで、小さなことでも満足することはすごく大事なことだと思うんです。だから、僕は今日のこの瞬間とても満足ですし、それを味わうとまた次へのやる気、モチベーションが生まれてくると、これまでの経験上、信じているので、これからもそうでありたいと思っています。」 聖書は言う。

「ですから、私たちは勇気を失いません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。」 第二コリント人への手紙4章16-17節。

イチローのような天才でなくとも、キリストを信じる者には、「自分のことのように喜んでくれる」イエスや教会が応援してくれる。難しいと思えるタスクを聖霊の力で乗り越えさせてくれる。そこから得た知恵や経験が日々の歩みの中で喜びとなり、次のタスクへのモチベーションとなり、やがて手にする大きな祝福へと進んで行く。

